

魚類の生活色其他に就いて(第3)*

黒田長禮

On the life colors of some fishes.—III

Nagamichi KURODA

最近九州の内田恵太郎博士から魚類の生活色については稀魚でなくても未だ充分知られないのもあるから引続き執筆してくれとの御依頼もあつたので、私の前の記事に引続けて記述する。生活色以外のことも附加する。

(38) **イバラハダカ** *Dasyscopelus spinosus* STEINDACHNER. 1947年10月12日沼津市桃郷海岸打揚の1点を拾得した。全長 71.5mm. 虹彩は淡黄銀色。背面は暗蒼色で次の側線との間は各鱗に著しく光ある紺色を点在する。側線上方小区域と下方腹面迄は帯淡蒼光銀色で鏡の如く、頭側も亦同色の光銀色であるが上方には多少の微小色素点がある。各鱗は全部淡蒼色を帯びた透明でそれに微小黒色素点があり、P., V., A. には比較的少いが、D. と殊に C. には密在する。C. 基部は灰黒色の2大斑をつくる。脂鱗にも微小淡褐色が微かにある。尾柄上縁に発光鱗を認めないが、下縁には明在する。発光器の分布はウスハダカ (*D. orientalis*) に一致するが、anal organ の数を異にする。茲に記載する標品では 左 $9 + 6 = 15$ 、右 $9 + 7 = 16$ で Gilbert (1913) によると変化が多く 13~15 平均 14 であると云う。(アミーバ, iii, nos. 1~2, p.91 に駿河湾より短報あり)。

(39) **ナガハダカ** *Myctophum californiense* Eigenm. et Eigenm. 1947年10月26日沼津市松長沖アジ夜網に入つた5尾を坂倉真一君から贈られた。5日間液漬後のものであるが大體鮮色を残していると思う。体鱗は脱落性で残鱗部は淡黒色で僅に淡紫蒼色を加味する。吻は淡蒼白色、鰓蓋は銀白色、少しく微小黒色素点あり、下顎には3個の発光器があり帯銀淡黒色。又発光板 (luminous plates) は雄と思われるものの尾柄上縁に6個あり、各境は黒縁を有する。C. 以外の各鱗は透明なるも僅に微小黒点がある。C. は深叉状で、上葉は凡べての例にあつて下葉より僅かに短かく地色白色に相当明なる横小黒点があり、基部は淡黒色が強い。脂鱗は殆ど白い。虹彩は銀色。眼は大形。全長 116.5~134.5 mm. 志下にて採集の例は「生物」1947, p.26 参照。

(40) **キユウリエソ** *Maurolicus pennanti japonicus* ISHIKAWA. 1946年2月9日志下海岸にて1点拾得のものは新鮮。吻端は半透明。背面は帯蒼暗褐色で、体側は金属的銀白色に微かに淡紅色を帯び両者の境界鮮明である。鰓蓋と眼下は銀白色光が強く、発光器は下顎にあるものは望遠鏡式の形をした6個、喉側の5個は円形、次の2列(上列8個、下側11個)は山形で、次の6個は連続(凹凸した)形に密接して並び、前臀鱗部発光器上方にあるは小形で円形15個密接し、最後の8個も亦小円形で密接する。而して面白いことには是等の発光器は全部美しい淡葡萄酒色で丁度宝石の如く光があるが、時を経るに従い褪色して此色素は消え去り、外輪の黒色を残した銀白色となる。凡べての鱗は淡色透明で、C. 基底に1横暗色斑がある。虹彩は淡帶黄銀色で囲虹彩輪は細黒色である。体に胡瓜の香がある。此標品は全長 48 mm. のもので、志下の外の例で1946年12月16日採、眼先と下顎前方とに左右1個宛の発光器がある。1947年1月1日採も同様。又蒲原の1標品で眼下と眼後に各1個の発光器があり、眼先と下顎前方とに左右1個宛の暗点(発光器?)がある。全長は上より 55, 48, 39.5 mm を測る。日本産は欧州産の亜種と認めたい。1916年以後

*花鯛類数種の生活色に就て、動雑、60巻11号、246—249頁(1951)

稀魚の生活色に就て、—I. 魚雑、2巻3号、128—133頁(1952)

稀魚の生活色に就て(第2). 魚雑、2巻4—5号、214—219頁(1952、参照)

採集したが数は少い (アミーバ, iii, nos. 1-2参照)。

(41) **ミズウオ** *Alepisaurus ferox* (Lowe). 1946年2月22日午前10時20分志下海岸清水別邸より少し先きに打上げ直後の未だ顎を動かしつつあるミズウオ1尾を波打際砂上に発見入手した。本日は晴天で静であつたが、20~21日に互り南西風が強力であつた(晴)。全長830, 体長705, 体高70 mm. D.37 [34(熊田・檜山)~38(Goode & Bean), 41~44(田中博士)]。体色: D. は濃紺色、膜に楕円又は不規則形の擬黒色大斑少量があり、外縁に細い白縁ある部がある。P. は淡灰色で内面の基部に黄銅色光を帯びる。V. は頗る小形で8~9軟条、P. と同様淡灰色、内面基部に銀色を帯びる。A. の前部軟条部は稍長く擬黒色、同後部軟条部は短く濃蒼色と黄銅色とがある。脂鱗は半円形に稍々高まり擬黒色。C. は深叉して擬黒色。体は丁度ガラス製の如くで、軟かなることイカの如くである。頭上から背部は暗銅緑褐色で光がある。眼先と体側は銀色に淡黄銅蒼色光を帯びる。眼下・鰓蓋及び下顎は淡紅銀色で光沢がある。体側でP. より前方の側方に暗鼠灰色の1縦帯が稍々不判明に存し、V. 上方から尾柄に至る間は1擬黒色隆起線をなし、尾柄殊に、C. 基底近くに銅光が強い。歯は大小あつて鋭く、全部ガラスの如く透明で、大歯ではこれを透して下の字が見える。虹彩: 眼は頗る大形で虹彩は汚黄黄金色で光り、上下に淡褐色大斑1個宛がある。

以上の新鮮のものを液漬とした処、D. の薄膜は液の動きにより波状に動き頗る美しく見える。1日置いた24日午後10時頃から25日早暁にかけ相当量の降雨があつた。尚 此外採集又は観察の結果は次表の様である。

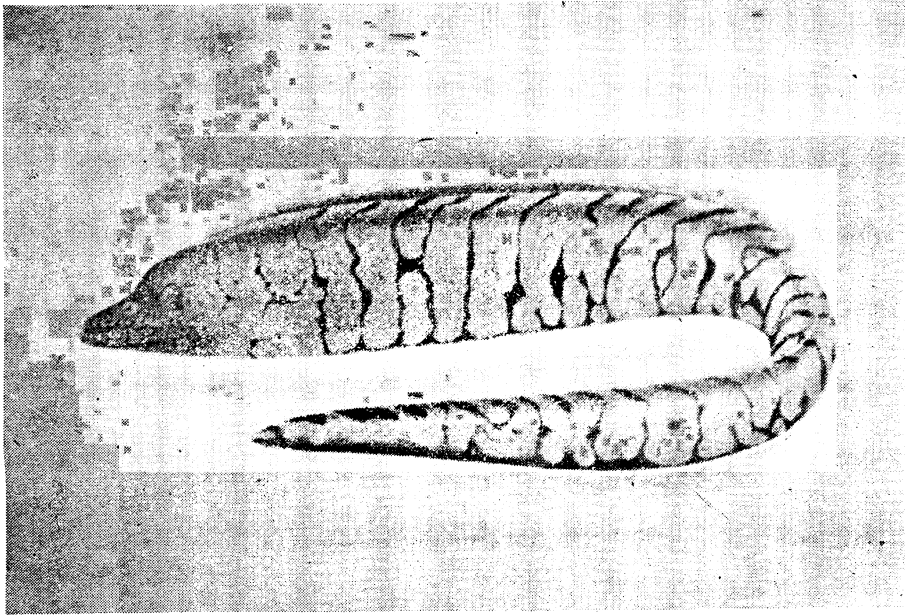
年月日	全長	産地	天候との関係其他
4. iv. 1937	1270	志下・桃郷境打揚
8. iv. 1937	〃
3. iv. 1942	志下西郷邸前打揚	4月5日風波強く荒模様となる
3. iv. 1943	志下打揚	4月4日南風強く少雨あり、5日は雨天
13. iv. 1946	〃	打揚後4日目の17日に大量降雨あり
11. vi. 1947	1124	桃郷打揚	降雨中打揚(背に横斑を認む)
29. viii. 1947	千本アジ網	中形のもの
10. xi. 1947	片浜沖アジ網	小形のもの
26. xii. 1947	1090	獅子浜打揚
2. v. 1948	頭部・志下	翌3日降雨あり

上表によりミズウオの打揚は天候の悪いときに多いことが明となる。大体冬から4月頃迄のものであるが、夏にも6, 8月の例もある。

(植・動, 6巻6号, 1143-1144頁, 1~3図参照)。

(42) **ハワイウツボ** *Gymnothorax berndti* SNYDER (= *G. richardsoni* (BLEEKER) ?). 1951年8月4日沼津市千本海水浴場に新設(1950年4月)の市営水族館を参観のとき本種1尾を発見した。それで取りあえず「魚雑」i, no. 6. p. 393に追加して置いた。その際のノートによると虹彩は幅狭い黄金色。体の地色は淡灰色にセピア褐色不規則の波状横線が約34条あり、時々Y字形を示し、体後部に行くに従い幅広くなる。体の地色も後半濃くなり極く薄い褐淡を帯びる。頭の前半は暗灰紫色(或は帯セピア薄蝦茶色又は見様で帯肉色紫色)で体の他部より著しく黒く見えた。尾部のA. の縁は白色となる。上下顎は先づ同長に見え、鼻管前方に突出する。以上は Snyder の原記載に全く一致する。

ハワイのホノルル市場産のものでは下顎は上顎より僅に突出するもの (タイプ全長 930 mm) 及び他の2標品では両顎は同長とある。夫故 Flower (1928) が *berndti* をオキノシマキツボ (*G. richardsoni*) のシノニムにしているのは正しい様に見える。尚ほ今後の調査を要する。本魚調査につき阿部博士より参考書を借用することを得たるを感謝する。



第1図 ハワイウツボ〔模式標品の図〕

Gymnothorax berndti [Jordan, 1905より] 千本水族館のものは殆ど之と同一

(43) **マイトビウオ** *Exonautus rondeleti* (C. et V.) 私は植・動、iii, no. 5, p. 1019 (1935) にイダテントビと共に混報した。動雑、61巻5号、P.135参照。色彩の事は今回始めて発表。1945年6月28日午前9時頃桃郷海岸にて極めて新鮮なる成魚 (全長360 mm, 体長 285 mm) を得た。これは附近にいた小児2人によれば海から舞い来りしものであると答えた。側線から上方の背面は鮮濃ルリ色、P. は淡黒色に小さく蒼色を帯び、膜は淡蒼色を帯び、先端縁は白色細縁となる。P. の下方の基部の軸は銀白色で翼を閉じたときには一つの光ある白大斑を構成する。* V. は白色で軟条の基部半部は蒼色を帯びる。D. 軟条は淡蒼色を帯び、膜は殆ど白。A. も白。C. に淡黒色で多少ルリ色を帯びる。虹彩：銀色に極く僅に淡緑蒼色を帯びる。個体により虹彩中に1褐色斑がある。上顎主骨の基半は銀白色の大斑をなし、下顎の末端は少しくルリ色の小斑となる。P. 基底、V. 基底及び C. 上半の基部には特に濃ルリ色の大斑を示す。側線以下の体側並びに下顎末端を除く以下の腹面は銀白色に光線により多少淡黄金光沢を示す。

此魚の背面の濃ルリ色は誠に鮮美を呈する。此種の稚魚は静浦附近から伊豆大瀬間の浮藻の附近に相当普通で従来採集したことが多い。その P. と V. とは真黒色を呈し、A. も後端に多少黒色があり、C. は白い。体色は成魚より淡いが矢張多少ルリ色を有する。游泳中はトンボ様に4翼を明瞭に開いている。主に流れ物の下や浮藻の下に附随している。1947年6月9日にも桃郷海岸波打際に両翼を開いたまま落ちた雌 (成魚全長 333 mm, 熟卵入) を拾得したことがあるので此種は時々斯様に海岸に舞い来つて落ちるらしい。

* 特徴—P. 第2軟条は第1軟条同様分枝しないことが著しい。A. 基底長と、D. 基底長とは略同長。

(44) トビウオの一種 *Cypselurus* sp. 1946年6月7日志下地曳網で大形サヨリ・キス等と共に本種数尾が獲られた。従来相模湾(オヤマ-基産地)から知られるのみの様である。此年に入つて5月31日に志下で約40尾獲られ、又6月5日にも1尾見たのも多分本種と同一と思う。然らば5~6月に渡来のものである。新鮮色一普通トビウオと特徴は大体一致するが、色彩は一見して鮮蒼色に富んで見える。此点一寸マイトビウオの様であるが、それ程美しくはなく、特に背面にはルリ色がなく、fuscous で体側中央上方は鮮蒼色、眼後方よりP.基底上方迄の短1縦帯はultramarine blue(紺蒼色)に多少紫色を加味し、眼先は背と同色、眼眼部の前下縁の細半輪と前方えの線は緑色、吻は上顎近くに肉色の1斑がある。上下唇は暗色で、多少淡色部がある。体側中央下は眼下部、体腹面と共に銀白色、腹部との境は幾分微淡銅色光を帯びる。尾柄最後端に1蒼紫色斑と其下方に1紅短線斑(左右共にあり)がある。D.とC.とは灰色で、D.は幾分蒼色を帯び、C.の後縁は多少暗色。P.は淡蒼灰色で中央より下は色淡く、P.の外面の中央に銀色の幅少々広き1斜走帯[特徴]があるが、此銀色は脱落し易い。V.は白色無斑で、前3軟条位は灰色を帯びる。A.は無色透明。虹彩は蒼銀色で下方中央に1暗点あることトビウオに等しい。P.はD.の基底後端に迄達す。全長257mm。又獅子浜沖でも1947年6月11日に全長250mm.の雌が獲られ、熟卵があつた。(動雑、61巻5号、p.135参照)。

(45) ハリダシエビス *Paratrachichthys prosthemi* JORDAN et FOWLER 従来駿河湾から報告のあるもので私も植・動、9巻5号、713頁に出した。体色の記載は今回が初めて。1945年7月24日志下の地曳網に多量中のネブツグイに混在した全長67.5mmのを獲た。虹彩は黄褐色。吻・頭上及び背は淡バラ色。体側は銀色。鰭全部淡バラ色で、P.の基底以外殆ど白い。腹側両側に鉛黒色の1縦帯があり、肛門は著しく前方でV.基底の間に開孔して黒色、次に列生する針出部(9個棘)の両側には灰色の9個の擬円斑点より成る1縦帯がある。P.基底及びその直上並びにV.基底は擬黒色である。

(46) バラムツ *Ruvettus pretiosus* Cocco. 1945年12月6日志下海岸にて幼魚1点(全長273mm)を拾得。背面は灰紫黒色で、体側から腹には淡蒼色を帯びる。これは多少色褪めた為めかと思われる。V.は白色に僅に灰色を帯び小なる1棘は淡桃色を帯びる。上顎の強大な大歯2個は桃色が相当に強い。D.の第1棘は擬白色で、膜は灰黒色、第2背鰭・A., C.は真黒に近い。側線は認め得る。虹彩は銀色で1大褐斑がある。(生物、1947、p.29参照)。

(47) クロシビカマス *Promethichthys prometheus* (C. et V.) 1945年9月26日伊豆大瀬沖アジ網の獲物中から中幼1尾(全長211mm)を入手した。方言ヤツバタ、サビタチと云う。虹彩は黄帯白色。体は側偏して柔軟、磨擦により皮膚は剝離し易い。体は銀黒色に紫色光沢があり、背方は濃色、体側面から腹方は銀光に富み、頭側及び両顎も銀色である。フオーマリン浸し1日にして体色は著しく黒くなり、紫光に富み、銀光は殆ど消える。恰もタチウオの新鮮と液浸との差の様である。ID.の棘は白く、膜のみ黒色。IID., P., A.及びC.の各鰭は白色に僅に淡蒼色を帯びる。V.はP.より前方の鰓蓋中部辺の腹方に1対の微小棘として存するのみ。成魚では各鰭は皆黒くなるものらしい(岡田・内田・松原・pl.51, fig.1参照)。方言サビタチとは銹太刀の意で最適名と思う。タチウオ程銀色に富まないが銀色が相当に多く、銹びたる太刀と見るは可である。(植・動、iii, no. 9, 1708 スミヤキ参照)。

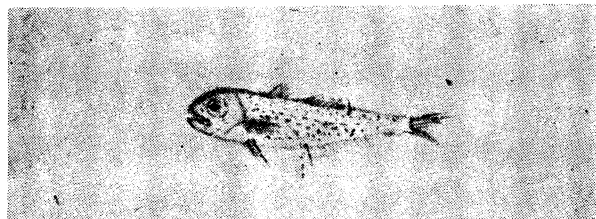
(48) マトウテンジクダイ *Apogonichthys carinatus* (C. et V.). 1945年7月24日及び同年12月5日に志下に於て地曳網(前者)と手繰網(後者)とで各1尾宛採集(全長夫々105.5mm., 199mm)。ネブツグイ多量中に含まれていた(前例)。虹彩淡金色又は黄金褐色。各鰭の黒斑部を除き淡黄色。頭から背面は汚淡褐色、体側及び腹面は淡肉色に銀光があり、鰓蓋に桃色光斑がある。眼後と眼下に暗色斑が各一つあるが濃色ではない。他の側ではこの斑は灰黒色で濃色で

ある。P. は淡桃色無斑、A. 淡硫黄色に 4~5 のバンドがある。(アミーバ、iii, nos. 1-2, p. 102 参照)。

本種の稚魚(全長 42mm.) 只 1 点を 1946 年 1 月 27 日に志下の手繰網で入手した。之は真に稀なものである。一見成魚に等しいが、体側に甚だ不判明な幅広き暗色素よりなる 5 横帯(尾柄上共)を示す。D. 2 基と A. 及び C. の各端に暗色を有する。IID. の黒円点には淡色の縁を認めない。虹彩は帯淡紅銀色である。

(49) **スミクイウオ** *Synagrops japonica* (DÖDERLEIN). 1941 年 8 月 29 日以後度々入手。(生物、1947, p. 29 参照)。体色一背方は暗灰色、体側には銀色光を帯びる。下顎は上顎より少し突出し、両顎に明かな犬歯がある。P. は細形で帯黄白色。ID. の棘の上端部が黒い。C. は幾分暗色を帯びるものと淡黄色のとある。他の鱗は白色。体鱗は大形で剥離性に望む。体側に幾分桃色を帯びる。虹彩は帯黄銀色。全長 75~80mm. の幼魚を主とする。

(50) **ムツ** *Scombrops boöps* (HOUTTUYN). 普通種であるが稚魚(17.5, 21.5, 22, 22.5 mm.) の記載は少い。桃郷沿岸小曳網にて 1946 年 2 月 8 日にアのユ稚魚・シラス(カタクチ)・トーレン(リュウグウハゼ稚魚)等と混じて漁獲されたもの。虹彩はシトロン黄色。頭上桃色、吻上・頭上から背オリブ黄色に多くの微小黒点〔ハンドレンズでなくては見えぬ〕を密布し、体側は帯黄銀色で背面より著しく大形の微小擬黒点〔レンズを要す〕を密布する。鰓蓋及び腹は銀白色で、それに同様の微小黒点があり、凡べての鱗は淡色。尾は叉状、吻は丸味がある。これは阿部博士の同定を経たものである。



第 2 図 ム ツ 稚魚 全長 17.5-22.5 此図拡大(桃郷産) 8.ii. 1946. (著者原図)

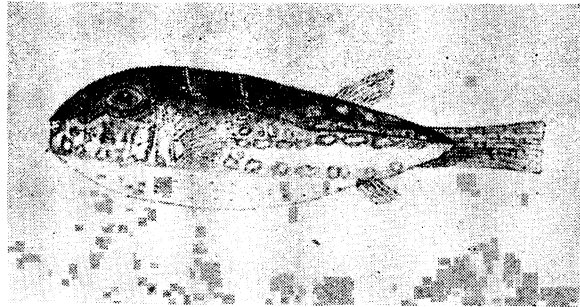
(51) **クログチ**(ハマニベ) *Nibe brunneola* (JORDAN et RICHARDSON). シノニム *Nibe nibe* (JORDAN et THOMPSON). 1951 年 11 月駿河湾焼津沖桜蝦網漁獲物中から入手した 1 尾(上野政治氏採集)。全長 225 mm 口内と腸間膜は真黒色。体側及び頬は銀色で D. 基部に沿い僅に暗色(淡蒼薄墨色)、鰓蓋上に 1 暗色部を有する。P. は白く、先半薄墨色。P. の腋部と上縁とは墨色。吻と唇の前縁は暗色。D. の棘部に狭黒縁、D. 軟条部にも薄墨色を帯び、C. は大部分黒色、基部は淡い。V. と A. は白く、A. には薄墨色の小密斑を多少有する。虹彩は帯褐黄色。(以上冷凍のものによる)。魚雑、i, no. 6, p. 393 に追加発表のもの。

(52) **カケハシハタ**(タケアラ) *Epinephelus morrhua morrhua* (C. et V.). 1947 年 1 月 15 日福本正之君千本沖手繰網に入りしものを持参。幼魚で全長 110mm. 虹彩黄金褐色。頭上から背方はオリブ黒色、体側に至り淡オリブ色となり、腹部は帯蒼白色。頭と体に蒼白帯があり、先づ眼の後方に 1, この下方に 2〔これは鰓蓋上にあつてそれを出でない〕、鰓蓋後端に 1 小斑、D. の第 1 棘から第 2, 第 3 の各棘基部より始まる 1 帯は少々半月形をなして眼の後方の第 2 斑の中間に向い、その中程迄達し、D. の第 10~11 棘に起る帯は P. 上方中央迄に延び、P. の内面にて蔽われる部には 2 斑があり、その上方のものは 1 小斑〔少々菱形〕、下方のは少々長味の繭形を呈する。D. 軟条部中央基底近くから生じる 1 帯は斜行して少し前方に突起を示しつつ下行し、腹方肛門上方に及ぶ。尾柄には 2 個の小斜帯があるが各々の下方は不判明に終る。A. の基

底中央から稍々前方に1小斑がある。是等の蒼白斑又は帯は何づれも濃褐色の比較的明かな縁を有する。鰓条及び上下顎は多少淡紅白色を帯びる。D. 棘部は蒼白帯部の外は真黒色、同軟条部は前方擬黒色、後方は淡シトロン黄色、基部は白い。C. は淡シトロン黄色で、後縁は円い。P. は淡黄色透明。V. も一層淡黄色。A. は淡シトロン黄色で、基部は灰白色である。(アミーバ、iii, nos. 1-2, p. 106 参照)。

(53) シツボウフグ (フウライフグ) *Sphoeroides hypselogenion* (BLEEKER). 駿河湾では頗る稀種で志下1点(1937年8月)(植動、9巻5号p.717参照)の外、1945年8月4日と12日に各1点を志下海岸に拾得した共に幼魚、測定すると次の通り。

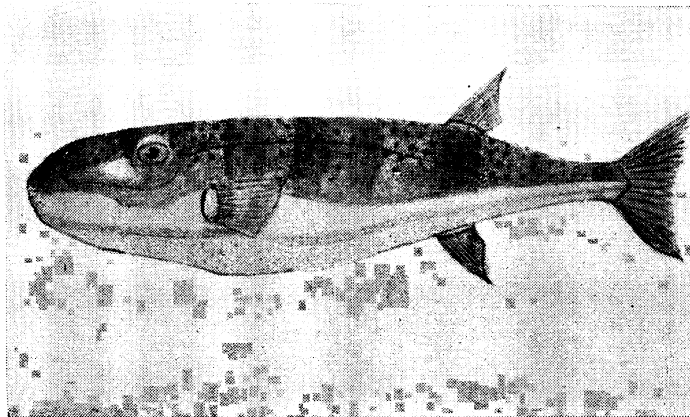
年 月 日	全 長	体 長	D.	A.	P.
4. viii 1945	93	73.5	8	6	13
12. viii 1945	97.5	76.5	9	15



第3図 シツボウフグ志下海岸打揚 Viii. 1945 (著者原図)

虹彩は汚橙黄色。背面は帯黄暗褐色で斑はあるが殆ど正中線では不判明。眼下及び体側には擬白色円斑又は長斑(各斑の縁は鮮明でない)相当明瞭にあつて七宝模様の様にも見える。P. の後端辺から C. 基底に達する黄褐色の擬円斑の連続よりなる2縦帯がある。P. 基底より前方では同色が着色されているが、4~5横帯となる。D., P. 及び A. 各鰭は白色、D. と P. の各軟条には細黒縁があり、P. には多少黄味を帯びる。C. は暗色で斑より成る5~7の暗褐色横帯がある。体側後半部、尾柄上下面及び腮を除く体全部には微小棘が匿在する。

(54) センニンフグ *Lagocephalus sceleratus* (GMELIN). 1951年8月4日千本水族館に只1尾



第4図 センニンフグ (著者原図) 全長凡 1500 mm 千本水族館飼育 (viii. 1951)

が大水槽中に游泳して居り、目算全長凡そ 1500 mm 位あつた。背面は帯蒼淡褐色の地に黒褐色の鮮明な円点を散在する。〔体側にある銀白色の 1 縦帯は背上から見た為め認められない〕。此巨大種は寧ろ円筒形で長く、頭胴の形ボラに類似して見えた。背面に淡褐色の横帯 9 個位を認めた。

之れは稀種に属し、熱帯性のもので、東印、ニューギニア、タヒチ、比群島、台湾、奄美大島、鹿児島及び伊豆下田で採集記録あるのみ。伊豆下田で採集の 1 例は全長 184 mm. の幼魚であつた (BREVOORT, 1856)。SMITH 教授 (1949) の南阿魚類中の図版にも一致するが、鰭の色を異する。私は取あえず「魚維」、i, no. 6, p. 393 に報告した。

(55) カワフグ (ヨリトフグ) *Liosaccus cutaneus* (GÜNTHER). 近頃無毒種であることが知られた著名のものである。1945年9月17日志下海岸打揚の 1 点を入手して以来度々観察された。頭上及び背面は淡帯蒼色、側面には淡蒼色を帯び腹は殆ど白く、僅に蒼色を帯びる。液浸後は頭上及び背面後部は暗色を呈する。頭上及び背面には細い隆起線の外に同様の線からなる小円斑少数を散在する。其他従来に記載に一致する。又 1947年2月22日採集のものは背面深灰色、吻は淡灰色、P. 後方の体側に暗帯蒼色の大班をなすが、背色に移行する。腹方は白色に淡蒼色を帯びる。D., A., P. は淡黄灰色、C. は同様で後縁少し灰黒色、下葉の先き擬白色、虹彩は黄銀色に褐色の半輪斑がある。又 1945年9月30日桃郷の標本は頭上と背面後部とは液浸前に已に暗色の不規則の大班を有した。体側面 (腹を除く) には淡黄色光を有した。虹彩淡黄色。以上の如き個体変化が見られた。測定其他は次表の通りである。

産地	年月日	全長	D.	A.	P.	備考
志下	17. ix. 1945	171mm.	8	8	14	打揚
桃郷	30. ix. 1945	211	8	8	14	海上に死して浮ぶ
同上	6. x. 1945	225	打揚
志下	10. x. 1945	225	〃
〃	6. xii. 1945	同、目撃 2 点
〃	26. xii. 1945	245	打揚
〃	30. xii. 1945	215	〃
〃	〃 〃 〃	235	〃
〃	7. i. 1946	250	〃
馬込	4. ii. 1946	210	〃
志下	6. ii. 1946	250	〃
〃	22. ii. 1947	384	8	8	15	〃 最大
〃	3. ii. 1948	220	打揚

常に海岸に打揚のものが普通で網に入つたのは見たことがない。多くは海上ウネリあつて岸に波高いときに見る。又秋から冬に多く夏は見た例が未だない。(生物、1947, p. 30 参照)。

(56) ユカタハゼ *Gobius otakii* (JORDAN et SNYDER). 静浦から私が報告したのは 1930 年 7 月 1 点 (アミーバ, iii, no. 3, p. 76, 1931) であり、其後 1945 年 8 月 24 日に志下の多少沖合の手網にイサギ稚魚、マアジ稚魚、カタクチ稚魚等と共に入つたもの僅に 3 点を得た。之は精査の結果珍種ユカタハゼと決定し得た。其特征はヒメハゼ (普通種) と比較して明である。

新鮮色のものは未だ見られないが 1 夜越の此標品では地色は擬白色で背面は暗色、側面から腹面は白く、各上方鱗には暗色縁を有するので、背面から見たとき菱形の綱目状を示している。頭側には大形鱗が鰓網にあつて体鱗と同大であるので頭側魚鱗のヒメハゼと直ちに区別される。体側の 5 暗色斑はユカタハゼでは黒褐色で頗る明瞭且つ 2—3 鱗に跨つた縦状斑点 (長味の) となるが、ヒメハゼの方では鮮明度が弱く、多くは 1 鱗 1 斑 (1—2 鱗に跨るのものもあるが) を示す。

C.の斑紋はヒメハゼでは中部上半に9~10個を有し、下半は無斑。然るにユカタハゼでは4~5の淡褐色带状斑をなす点で異る。ユカタハゼの体側に不判明ながら暗橙色の微小擬円斑点があり、それらは側線上にある1縦列、側線上方に3縦列、側線下方に1縦列、計5縦列をなすことが著しい。C.は相当に黒い縁を示し、V.にも擬黒色を帯びる。P.は白く、基底上方に1黒斑がある。鱗列は25~27個でヒメハゼでは26~30個である。ユカタハゼの下顎角は淡黒色のV字斑をなしている。3点のユカタハゼの全長45.5, 46.5, 48 mm.

(57) ヤリヌメリ *Calliurichthys doryssus* JORDAN et FOWLER. 1946年4月9日伊豆田方郡井田沖手線網80尋で幼魚雌雄2点(全長 公 94, ♀ 76.5 mm.)を得た。公体色一背面は淡灰褐色の地に円斑その他網目状斑をなし暗灰色の約4広横帯があり、その縁は凹凸曲線で囲み、此横帯中に淡色小円輪斑が散在する。頭上から吻は暗褐色となり、鰓蓋に2~3の暗横帯があり又4~5個の淡蒼色点〔液浸後は消える〕が1縦列に並ぶ。体側には黒褐色擬円点5~6個が離れて1縦列をなし、各円点間と上方とに微小淡灰褐色点があり、腹面近くには10個程の灰黒色横短斑がある。腹面は白色。ID.は此標品ではI~IIIの順に短くなり凡べて糸状。最長棘先端は体長の約 $\frac{2}{3}$ の処迄達す。第4棘は幼の為めか頗る短く糸状とならない。ID.の膜は基部丈けにあり暗灰色で、糸状部には黒色と灰色との交互の微小斑をなす。第4棘の膜は灰黒色。IID.は淡色膜に約4斜列の暗褐色点列がある〔J., T. & S., 1913, fig. 通り〕。P.は淡色地に淡栗褐色の微小点密在する。V.は淡色地に3~4の灰黒色横斑あり先端近く灰黒色大斑となり、内に擬白円点があり、先端は白い。A.は白色で先端擬黒色縁を有す。C.は中央軟条数条は上不葉より可なり長く、淡色地で軟条は白く、それに6~7個の黒点があつて横列をなし、上方軟条は特に短くなり、斑点も微細となる。

早幼一公幼と同様であるが、ID.は棘が皆短かく糸状とならない。その前方は淡灰褐色、後方は黒色、その下方に1白円斑がある。頭側に蒼斑はない。C.も公より著しく短かく、その斑点は黒くなく、暗栗褐色で、4点列あるのみ。下部軟条は少し灰色を帯びる。(動雑61巻6号、174頁)

(58) ホロヌメリ *Callionymus virgis* JORDAN et FOWLER. 1946年3月19日~4月2日迄の間に志下手線網にて15点、伊豆土肥沖手線、100尋で少数(同年3月27日)について調査した(動雑、61巻6号、174頁)。

新鮮色一背面は半透的で淡オリーブ灰色、それに頭頂から尾柄迄に灰褐色の細い小円斑と半円形曲線とが散在する。吻端は少し擬黒色。頭上は鈍バラ色、頭側から体側には7~8個の黒色擬卵形斑が間隔を置いてあり、これの上方に灰褐色小斑列があり、又黒色擬卵形斑の間及び体腹面に互り3縦列の極めて不判明な淡色の灰黄色点列がある。D.棘部の膜は幼魚の為めか J., T. & S.の図の様に高くなく、棘半か又は基部のみにあり、而して膜はオリーブ黄色で美しく、棘の基部 $\frac{2}{3}$ と膜外上端 $\frac{2}{3}$ とは黒色となる。膜内には白色の長横斑(形は一定しない)があり、先方に1白円点があるのは1尾丈けで他は之れを有しない〔J., T. & S.の図には多くかかれる〕これも幼の為めかと思う。IID.は棘部と同色で、色淡く、膜基部に黒褐色点と白点とが交互にあり、軟条には淡色と黒褐色小斑とが交互し、膜の上方にも小白円斑が各膜に1個宛あるが、後方のものにはない。P.は淡黄白色地に微小淡褐斑点を密布する。V.も同色に少量の同様小点があり、先方の縁が灰黒色で一吋目立つ。A.は白色で基底に辺縁近くとに淡オリーブ黄色の卵形斑列がある。C.は開くと外縁円く、淡オリーブ黄色で、中部と上方の軟条に黒褐色斑があり、下方縁は灰黒色の1縦帯をなす。(以上は稚魚・幼魚共同様の点である)。

♀と思われる幼魚は上記記載と同様であるが、ID.には糸状棘はなく、棘は皆短かく、此鱗に1黒斑を有し、棘端僅かに膜外に出る。IID.は淡色で黄色点も白点もなく、軟条に微かに暗色斑

があるのみ。V. には黒縁がない。A. も白色で暗色点は極めて少量にある。其他部は合と同様。

虹彩 (♀合) — 淡黄オリーブ色、上方に灰褐色、内細輪は淡黄色。

此種の D. 棘部は 合では非常に延長し、第 2 と第 4 棘とが著しく長く、C. に迄達し、両背鰭は鰭膜で基部を連続する。今回の幼魚・稚魚を詳細に調べると各個体で D. 棘の長さが各々一定していないことを知る。これは幼魚の為めかもしれない。以下測定と共に掲げる。産地はすべて志下沖

性	全 長	背 鰭 棘 の 長 短 の 変 化
合	90mm.	II~III 同長で最長 C. に達す。I は少し短、IV は I よりも著しく短
合	82.5	I~IV が順次に短くなる。最長も尾柄に達せず。
合	66.5	III 最長、I = II = IV. 最長は C. 基底に達す。
合	64	I~II 同長で最長、C. 基底迄達す。III が次、IV 最短
合	63	II~IV 同長で最長、C. 基底に辛じて達す。I が少し短
合	60.5	II 最長、I = III, IV 最短。最長も尾柄に達せず
合 稚	52	III = IV 最長、次 II、最短は I. 最長は C. 基底に達す。
合 稚	48	I 最長で C. 基底に達す。IV 次に長い、次 II, 最短 III.
合 稚	41.5	II~IV 同長、I 最短。最長棘も背の中央迄
合 稚	40	II 最長、尾柄迄も達せず、I, III, IV の順
合 稚	36.5	I = III 最長、尾柄迄も達せず、II = IV で短

♀は全長 69, 60, 44.5, 44.5mm の 4 例の内何づれも棘部は延長していない。

Résumé.

The part three of this article contains descriptions of life colors and some interesting notes on the fishes found in Suruga Bay. The interesting species are as follows :

Gymnothorax berndti (= *richardsi*?); very young stages (17.5-22.5mm.) of *Scombrops boöps*; *Sphoeroides hypselogenion*; *Lagocephalus sceleratus*; *Gobius otakii*; *Calliurichthys doryssus* and *Callionymus virgis*.